

6年 「新しい時代の幕あけ」にプラスワン

(教科書では『小学社会6上』 p. 88~104)

1 「つかむ」段階に、考える活動をプラスワンする

「新しい時代の幕あけ」の小単元は、教科書の指導計画では、第1時に学習問題を立て、第2時から調べる活動に入る。6年生の学習は、授業時数に比べて学習内容が多いため、「つかむ」段階に多くの時間をかけられないことが多い。そのため、教師主導の講義型の授業になりやすい傾向がある。

調べる活動やまとめる活動に子どもが能動的に取り組むようにするためには、学習問題に対する予想や学習計画を考えてから、調べる活動に入ることが効果的だ。

(1) 資料からまちの変化を読み取り、その理由を考える

教科書 p. 88~89 には、江戸時代末期と明治時代中期の横浜の様子が掲載されている。

T) この二つの資料は、横浜の同じ場所です。違いや共通点を見つけましょう。

教科書を開かせずに資料だけを印刷して配ると、子どもは書き込みをしながら集中して活動できる。発問した後、すぐに発表させてもいいが、全員参加の授業にするためには、個人作業の時間を2分程度とってから発表させるといい。

教科書の資料をそのまま使ってもいいが、身近な地域の資料がある場合は、そちらを使った方が能動的に学習に取り組める。

C) 1860年の建物は木や瓦でできているけれど、1890年はレンガや石でできている。

C) 1860年はみんな着物を着ているけれど、1890年は洋服を着ている。

C) 1890年は電柱がたくさんあるから、電気を使っている。

C) 1860年の様子は絵で描かれているけれど、1890年は写真だから、技術が発達したのだと思う。

「違いを見つける」という活動は、子どもにとって興味をもちやすく、発言も活発に出ることだろう。しかし、それだけで満足せず、その違いはなぜ起こったのかをさらに考えさせたい。こうしたちょっとしたプラスワンが、子どもの考える力を伸ばしていく。

T) どうしてこのような変化が30年の間に起こったのだと思いますか。

C) 鎖国をやめて、外国の文化をどんどん取り入れることにしたのだと思う。

C) 貿易をするようになったから、外国人向けに建物を造り変えたのかもしれない。

C) 技術が発達して、電気や写真を発明したのだと思う。

T) 鎖国をやめたのだとしたら、それを決めたのは誰だと思いますか。

C) 江戸幕府の人たちだと思う。

C) もう幕府はなくなったのかもしれない。

このように、変化の理由を問うことで、変化の背景にある「外国の存在」や「政治の変化」に目を向けさせることができる。「どうして変化したのだろうか」という疑問を子どもは自然にもつので、

そのあとの調べる活動につなげやすい。

(2) 学習問題をつくり、予想や学習計画を考える

ここで、この30年の間に江戸幕府がなくなり、政治のしくみも大きく変わっていったことを伝えてから、学習問題「新しい国づくりは、どこに学んで、どのように進められたのだろう。」をつくる。この学習問題は、文言が多少違っていても構わない。子どもに考えさせてもいいし、教師が設定してもいいだろう。

そして、学習問題に対する予想を考える活動をプラスワンする。

C) アメリカやヨーロッパに、文化を学びに行ったと思う。

C) 外国人を日本に呼んで、技術を学んだのではないか。

C) 外国と貿易をして、外国の品物を輸入したと思う。

さらに、学習計画も考える。これが調べる視点になる。

T) 学習問題を解決するためには、どんなことを調べたらいいでしょうか。

C) どこの国に文化を学んだのか。

C) どうやって新しい文化を取り入れたのか。

C) どうして江戸幕府がなくなったのか。

C) 幕府がなくなったのなら、だれが国づくりをしたのか。

C) 政治のしくみはどのように変わったのか。

調べることを整理すると、「幕府がなくなったのはなぜか」「だれが新しい国づくりを行ったのか」「どこの国から学んだのか」「政治のしくみがどのように変わったのか」の4点になる。

このように、学習問題をつくったあとに、予想や学習計画を考える活動を入れると、その後の追究活動が主体的なものになる。第1時の授業で時間が足りなくなった場合は、第2時の初めに行ってもいいだろう。

ちがいや共通点を見つけよう

1860年の横浜

1890年の横浜

なぜ30年の間に変化が起こったのか

- 鎖国をやめた
- 外国の文化を取り入れた
- 貿易をした
- 技術が発達

学習問題を作り、予想を考えよう。

新しい国づくりは、どこに学んで、どのように進められたのだろう。

予想

- アメリカやヨーロッパに文化を学んだ
- 外国人を日本に呼んだ
- 貿易して品物を輸入した

調べること

- どこの国に文化を学んだか
- どうやって新しい文化を取り入れたか
- なぜ江戸幕府がなくなったか
- だれが国づくりをしたか

木やかから → 建物 → レンガや石

着物 → 服 → 洋服

電柱がない → 電柱 → 電柱がある

絵 → 写真

案: 江戸幕府がなくなり、政治のしくみが大きく変わった!

2 明治政府の取り組みを調べる段階で、ノート指導や表現活動をプラスワンする

黒船来航から倒幕までの流れを学習したあと、いよいよ明治政府の働きを調べる活動に入る。明治政府は、新しい国づくりの基本方針として「五箇条の御誓文」を發表した。

この五箇条の御誓文と、明治政府の取り組みを関連付けて調べると、新しい国づくりに対する理解を深めていくことができる。

(1) 明治政府の国づくりの基本方針は、実現されたのかを調べる

T) 新しい政府は、どのような政治を目ざしたのでしょ。

これは教科書に出ている五箇条の御誓文を読めばすぐにわかる。

- | |
|------------------------------|
| 1 政治は、会議を開いてみんなの意見を聞いて決めよう |
| 2 国民が心を合わせて、国の勢いをさかんにしよう |
| 3 国民一人一人の意見がかなう世の中にしよう |
| 4 これまでのよくないしきたりを改めよう |
| 5 知識を世界から学んで、天皇中心の国家をさかんにしよう |

大切なのは、この方針が実現されたかどうかだ。

T) 明治政府が行った政治は、五箇条の御誓文のどの項目に関係があるかを考えましょ。

例えば、「廢藩置県」は、「4 これまでのよくないしきたりを改めよう」に関連が強い。「四民平等」や「解放令」は、「3 国民一人一人の意見がかなう世の中にしよう」と「4 これまでのよくないしきたりを改めよう」を実現しようとしたものだ。

このように、明治政府の政策を五箇条の御誓文と関連付けて調べていくと、それぞれの政策の目的や意味まで理解することができる。

(2) 表現活動を工夫して、調べる活動を活性化する

調べたことは、ノートに書く場合が多いだろう。この授業の場合、ノート1ページに、五箇条の御誓文を1項目ずつ書き、その下に明治政府の取り組みを書き込んでいくという形式がいい。そうすると五つの項目すべてを調べようとする意欲がわいてくる。

ノートには、政策の内容や目的、行った年や関わった人物もわかる範囲で書いていくように指示する。このようにノートを書かせることで、明治政府が五箇条の御誓文の実現を目ざして、さまざまな取り組みをしていったことがわかる。

- | | |
|---|--|
| 1 政治は、会議を開いてみんなの意見を聞いて決めよう ○1890 最初の選挙, 第1回の国会 | 2 国民が心を合わせて、国の勢いをさかんにしよう ○殖産興業 ・富岡製糸場 ・官営工場 ・外国人の技術者 ・民間の会社を育成 ○1873 徴兵令 富国強兵 |
|---|--|

3 国民一人一人の意見がかなう世の中にしよう

- 四民平等
- 1871 解放令
- 1872 学校制度

4 これまでのよくないしきたりを改めよう

- 1871 廃藩置県
- 1873 地租改正

5 知識を世界から学んで、天皇中心の国家をさかんにしよう

- 使節団を送る
- 1872 鉄道が開通
- 文明開化
- 1889 大日本帝国憲法

また、マインドマップやイメージマップの形式で調べたことを表現することも、子どもの意欲を高めることにつながる。



これは、明治政府の取り組みを調べながら子どもが描いたマインドマップだ。中央から伸びる5本の太い枝には、五箇条の御誓文が書かれている。そして、明治政府の取り組みを教科書や資料集で調べて、関係のある枝の先に書き込んでいく。

明治初期の取り組みを調べた時点では、この作品のように「政治は会議を開いて決める」という項目に何も書かれていない。明治初期の段階では、まだ政府内の少数の人々の考えで改革が進められていったことがわかる。自由民権運動や選挙の実施、第1回国会はこのあとに行われる。調べ活

動を進めることで、マインドマップに書き込まれていく。

画用紙1枚に書かれているため、子どもの調べる力や意欲が一目で評価できる。また、つまづいている子どもに資料を提示するなど、的確な指導をすぐに行うことができる。

初めのうちは、書く量の少ない子どももいる。互いの作品を見合う時間を設けることで、書き方に慣れさせていくといい。

授業で新しい表現活動を取り入れるときには、段階を追った指導をしていくことが大切だ。このマインドマップの場合は、初めは夏休みの思い出や自己紹介など、身近な話題で書き方を学んでから社会科の調べ活動で取り入れるようにするといいだろう。

(2015年9月)

あらし
嵐 げんしゅう
元秀

東京都の公立小学校教師。教師歴27年。

楽しみながら、調べ・考え・表現する力が高まっていく
社会科授業を旨として研究・実践をしている。